東京

「TOKYO—X」飼料にコメ

東京生まれの高級豚

TPPにらみ品質向上

東京生まれの高級豚肉「TOKYO—X（トウキョウ エックス）」の品質を一段と高める試みがスタートした。農家と流通団体が5月から、豚の飼料にコメ（飼料米）を試験的に与え始めた。コメを食べて育った家畜の食肉は、口溶けの食感が良いとされる。環太平洋経済連携協定（TPP）をにらみ、豚肉のブランド価値を高める。

これまでは主にコメより安価なトウモロコシや麦を豚に食べさせていた。今月から飼料にしたのは家畜飼料用のコメで、人の米飯用のコメとは品種が異なる。飼料用とはいえ、コメで育った家畜の食肉の脂肪は溶ける温度が低く、食べた時の脂肪の食感が良くなるという。

「東京ソラマチ」の店ではウインナーなどにして販売している（東京都墨田区）

今月から一部農家でトウモロコシや麦などの飼料に飼料米を15％混ぜて与えるようにした。一定期間後に肉質と食味を確かめ、全ての農家に導入するかどうかを決める。一般的に飼料米は他の飼料に比べて高価だが、農家からの豚の出荷価格は変えない方針だ。

小売価格は一般的な豚肉に比べ5～7割高い。日本がTPPに参加すれば、海外から安価な豚肉やソーセージなどの流入増加が考えられる。

飼料米を与えるのは価格競争に巻き込まれず、ブランド豚肉としての品質と価格を維持する狙いもある。流通団体の「TOKYO X—Association」（東京都立川市）の植村光一郎会長は「脂肪だけでなく、赤身肉部分の品質向上も期待できる」と狙いを話している。

▼TOKYO—X　東京都が1997年に開発した高級豚肉。安価な輸入豚肉に対抗できる高級豚肉を目指し、北京黒豚や英国系黒豚など3品種を交配して品種改良した。上質の赤みと脂肪がほどよく混ざった肉質が特徴だ。年間の生産頭数は約9千頭。

TOKYO—Xという変わった名称は、おいしい肉質の豚をかけあわせた交雑種のX（クロス）と、未知の可能性のX（エックス）を秘めた東京生まれの豚という意味から名付けられた。

流通団体の「TOKYO X—Association」という組合に加入している都内の百貨店やスーパー、生協などで精肉を販売している。

時間前倒しなどを要望した。

会議終了後、記者団に「国際競争に勝ち抜くイメージ。東京の現場でやれることはやる」と説明。一連の提案は「（医療や教育の環境整備と）全部セットで考える必要がある」と強調した。

猪瀬知事は「かつて日

区制度で26・9％に下げた法人実効税率（復興特

詰などの通じる病院や賓の高いインターナショナ

る」環境をつくりたい考えだ。

耐震改修へ専門家無料派遣

都が診断実施ビル開始

東京都は22日、幹線道路沿いで耐震診断を受けた後に耐震改修を検討しているビルやマンションに対し、無料で専門家を派遣する事業を始めた。都が幹線道路沿いの建築物に耐震診断を義務付けてから1年以上が経過し、強度不足が判明したビルが増えているため。技術的な相談やマンション内の合意づくりなど相談内容に応じて様々な専門家を派遣する。

東京都防災・建築まちづくりセンターが窓口となり、建築士や弁護士、税理士、ファイナンシャルプランナー（FP）などを派遣する。都は耐震診断の技術者は無料派遣してきたが、改修に向けた相談が増えてきたため幅広い分野の相談に対応できるようにする。

都は大震災の時にビルが倒れて道路が寸断されるのを防ごうと、昨年4月に幹線道路沿いの建物約5000棟を対象に耐震診断を義務付けた。既に半数超が診断を実施。耐震性が不足していても改修は義務ではないが、都は補助金などで改修を後押ししている。

道や四国・九州といった遠隔地からの観光客を取り込んだ。2012年度の売上

眺

東京タ

やトリ

った。

東武動物公園

シニア層、散策に来て

歩数に応じ景品贈呈

東武動物公園（埼玉県宮代町）はシニア層に平日に園内を散策してもらう「ハイキングプラン」を始めた。入園時に歩数